

# 海外農林業情報 No. 106

## 目次

【世界の貿易関係】米中貿易問題と RCEP、Brexit の動向 .....	1
【世界の食料需給】米国農務省による世界の農産物需給見通し .....	2
本紙に関するお知らせ .....	3

## 【世界の貿易関係】米中貿易問題と RCEP、Brexit の動向

いくつかの重要な貿易関係の動向を概観します。

### 米中貿易問題

米中両国は1月15日、貿易交渉に係る「第1段階の合意」について合意文書に正式に署名し、米通商代表（USTR）は本文が8章から成る96頁の合意文書を公表しました。合意の柱は、米中貿易の大幅拡大で、中国は米国からモノとサービスの輸入を今後2年間で2,000億ドル増やし（1.5倍に相当）、その内訳は、工業品777億ドル、液化天然ガス等のエネルギーが524億ドル、農畜産物が320億ドル等となっています。知的財産の保護については、「中国は企業秘密や商標などで権利保護を強化する」とし、また技術移転について「当局による外国企業への技術移転の強要を禁止する」とするなども盛り込まれています。

今回の合意を受けて、米国は2月中旬をメドに、発動済みの追加関税のうち15%を課している1,200億ドル相当分は7.5%に引き下げます。

このように米中貿易戦争は一層の加熱は避けられた形ですが、米国が2,500億ドル相当分に課した追加関税25%はそのままです。したがって、しばらくの間は、この状況が続き、休戦状態になるのではないかと考えられます。

### RCEP

16カ国が交渉に参加しているRCEP（東アジア地域包括的経済連携）については、昨年11月4日にタイで首脳会議が開催されましたが、特にインドが大幅な関税撤廃に慎重な姿勢を崩さず、目指していた年内妥結を見送りました。インドは会合後にRCEP交渉からの離脱の可能性を示唆し、交渉の枠組み自体をどうするかという議論にも発展しかねない状況です。我が国はインドの参加が重要との考えであり、インドの動きを待つ状態が続くとみられます。

### Brexit（英国のEU離脱）

混迷を続けた本件については、1月9日に英国下院が離脱関連法案を可決し、ついに本年1月末をもって英国はEUを離脱することが確実となりました。本年12月末までの移行期間（2022年末まで延長できる）が設けられており、その間に英国-EU間の自由貿易協定（FTA）締結交渉を行うことになっています。ただ、英国ジョンソン首相は移行期間を延長

する意向がなく、本年末までに合意できなければ、「合意なき離脱」と同じ状況になるとの懸念が出ています。

総選挙で保守党が掲げた公約では、EUの他に、米国、オーストラリア、ニュージーランドおよび日本と優先的に通商交渉を進めるとしており、日本とは、既に発効済みの日EU・EPAに代わる新協定の交渉をはじめることになると思われます。

農業との関連では、これまでEUの共通農業政策の枠組みで行われてきた英国の農業政策が、離脱後にどうなっていくのかが注目されます。

<参考リンク>

Economic and Trade Agreement Between the Government of the United States and the Government of the People's Republic of China (USTR、1/15 付)

<https://ustr.gov/about-us/policy-offices/press-office/press-releases/2020/january/economic-and-trade-agreement-between-government-united-states-and-government-peoples-republic-china>

米中「第1段階合意」に署名 中国、米製品の輸入5割増(日本経済新聞電子版、1/16 付)

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ054444220W0A110C2000000/>

### 【世界の食料需給】米国農務省による世界の農産物需給見通し

米国農務省(USDA)は1月10日、2019/20年度の世界の穀物・大豆の需給見通しを発表しました。品目別の見通しは次の通りとなっています。しかしながら、現在、南半球では乾燥した気象状況が続いており、オーストラリアの小麦・大麦、ブラジル、アルゼンチンの大豆、トウモロコシ等の生産への影響が懸念されています。

#### 小麦

世界の生産量は、豪州の干ばつの影響の継続やロシア等での減収により対前月で下方修正されたものの、7億6,439万トンと、前年度を上回る見通しとなりました。世界の消費量は前年度より増加する見通しですが、生産量が消費量を上回る結果、期末在庫量は、対前月で下方修正されたものの前年度より増加し、2億8,808万トンと史上最高となる見通しです。

#### トウモロコシ

世界の生産量は、米国が対前月で上方修正されたものの、前年度を下回る11億1,084万トンとなる見通しとなりました。消費量も、米国が対前月で上方修正されたものの前年度より減少する見通しで、世界の生産量が消費量を下回り、期末在庫量2億9,781万トンと前年度より減少する見通しです。

#### コメ

世界の生産量は、タイが対前月で下方修正され、4億9,667万トン(精米)と前年度を下回る見通しとなりましたが、消費量を上回っており、期末在庫量は1億7,705万トン(精米)と、前年度より増加する見通しです。

## 大豆

世界の生産量は、米国で単収の引き上げにより生産量がわずかに対前月で上方修正されたものの、前年度より減少し、世界全体でも前年度より減少し、3億3,770万トンとなる見通しです。世界の生産量が消費量を下回るため、期末在庫量は前年度より減少し9,667万トンとなる見通しです。

なお、大豆の国際価格については、米中貿易摩擦の動向が大きな影響を及ぼしてきました。米中間の「第1段階の合意」が昨年12月中旬に表明されて以降、相場はほぼ一貫して上昇してきましたが、1月には世界の大豆輸出の5割を占めるブラジル産の出荷が始まることから、米中摩擦のこれ以上の悪化がなければ、今後の市況は生産状況が主導する展開となることが予想されます。直近のシカゴ相場は、1月10日の米国農務省の上記需給見通し発表後の13日に下げ、また15日の「第1段階の合意」正式署名後も下落しています。

<参考リンク>

World Agricultural Supply and Demand Estimates (USDA)

<https://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/index.htm>

海外食料需給インフォメーション（農林水産省）

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/index.html>

大豆 1カ月ぶり安値 シカゴ先物 収穫予想上振れ（日本経済新聞、1/15付）

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO54371920U0A110C2QM8000/>

（文責：藤岡 典夫）

### 本紙に関するお知らせ

『海外農林業情報』は、これまで世界の貿易関係および食料需給の動向、JAICAFの海外協力案件の紹介等についてWebおよびメールを通じて発信してきました。JAICAFでは、これとは別に、国連食糧農業機関（FAO）の情報を中心に世界の農林水産業に関するトピックを内容とする情報誌『世界の農林水産』（季刊）を刊行してきましたが、2020年4月以降はこれが廃刊となり、新たにニュースレター『JAICAF Newsletter』（季刊）を発行することになりました。『JAICAF Newsletter』では、JAICAFの事業紹介およびFAOの資料を含む世界の農林水産業に関する情報を掲載することにしており、これに伴い、これまで『海外農林業情報』でお伝えしてきた内容については、4月以降は『JAICAF Newsletter』の中に組み入れる形で発信していくことにしています。

---

本情報のメール配信をご希望の方は、件名に『海外農林業情報配信希望』と記入した空（から）メールを下記までお送り下さい。ご意見、ご感想もお待ちしております。E-mailアドレス：[deskb@jaicaf.or.jp](mailto:deskb@jaicaf.or.jp)  
メールを送付された方には、確認メールをお送りします。送信後2週間以内に届かない場合は、お手数ですが03-5772-7880（担当：森・西野）までお電話下さいますようお願い申し上げます。なお、メール配信をご希望の方には、本ミニ情報のほか、セミナーのご案内等、当協会からのお知らせが届くことがありますので、併せてご了承下さい。

**発行：（公社）国際農林業協働協会（JAICAF）**

**〒107-0052 東京都港区赤坂8丁目10-39 赤坂KSAビル3階**